

俳句

秋口 大門
北川 栄子
吉永 幸司
選

特選 端座して虚空見つむる雨蛙

日夏町 疋田 和子

(評) 恋に破れたのか、鳴くのをやめ、よるべなき空を見つめ、世のままならぬことを知る雨蛙。この句の素材は空と蛙、だが、奥行きがある。端座する蛙は悟りの境地か。禅僧の只管打坐の雰囲気。鳥獣戯画の世界を彷彿させるおおらかな作品。

(大門)

特選 百までは生きるつもりで青き踏む

鳥居本町 寺村 美恵

(評) 長寿とひと口に言っても、それなりの目標がいるように思う。八十になれば九十を、九十になれば百をと言うように先の目標と、生きる努力も大切な要素なのかも知れない。私も含めて、誰もが元気で百歳を迎えられたら喜ばしいと思う。

(栄子)

特選 白波の尖る湖面や冴返る

大藪町 岩沢 青水

(評) 母なる琵琶湖は四季折々、様々な姿を見せてくれます。この日は、風が強く波が泡立って鋭く見えたのでしょうか。少し暖かくなりかけたと思う間もなく寒さが戻ってきた時の季節感を巧みにとらえています。

(幸司)

入選 城遙か農事励ます百千鳥

八坂町 飯島 潤

(評) 春耕にうちこむ作者。その傍らの山裾、杜かも知れない鳥の声。鳥たちも活発になり声を掛け合う季節。その声を励ましと捉え農事に勤しむ作者。はるかに名城の白亜の城山が控える。

(大門)

入選 手袋に土黒々と菊根分け

大藪町 吉田 和治

(評) 元氣よく沢山出て来た菊の芽を分けて増やすのである。黒々とした土から、よく肥えた土を想像する。分植した菊苗がそれぞれ良い花を咲かせて、切り花とか仏花等の一端を担うかも知れない。手を掛けて育てる楽しみ。

(栄子)

入選 控へ目も秘めたる強さ水仙花

東近江市 仲岸 有子

(評) 春の訪れを告げる花として知られている水仙花は、鮮やかな白色やクリーム色をしていて心を魅了する美しさをもっています。さらに内に秘めた強さもあります。「控え目」という表現が印象に残りました。

(幸司)

入選 種芋のちから在る顔選び買う

長浜市 野口 成人

(評) 種芋を買う時の選別の様子。「ちからある顔」とは確かに抽象的ではあるが、それを経験で補い選別する。おそらく選ばれた芋は立派に育ち家族等の胃を満足させるはず。

(大門)

入選 花の散る音なき音に季の移り

宇尾町 金森光男

(評) 耳を澄ましてみても、風音はすれど花の散る音は聴こえない。初花から始まり、三分、五分、満開、花吹雪と移り変わり、気がつけば葉桜となつていく。季節の移り変りの早さが感じられる。

(栄子)

入選 一滴の雨粒を抱く柿若葉

米原市 西尾辰之

(評) 柿の若葉は萌黄色で新緑の息吹を感じます。その若葉に一滴の雨粒という情景を美しく仕立てられています。「雨粒抱く」からその瞬間の静けさが伝わってきます。

(幸司)

入選 駄菓子屋のレジはそろばん翳雲

平田町 北村浩子

(評) 駄菓子屋に集まる子ども達。店主はこれらの子ども達と親しさを保ちつつ、小銭を勘定。十円なり二十円なりとそろばんを弾く。そんな時代を懐かしみ翳雲を眺めている。

(大門)

入選 追伸のような日差しや春を待つ

西今町 前田弘子

(評) 思い出した様に届く暖かい日差しが、ちょっとしただけ幸福な気持ちにしてくれる。「春惜む」は季節にあるが、「冬惜む」は無い。やはり皆が春を待っているからであろう。どこかほつとする心がうまく表現されている。

(栄子)

入選 挑戦は生きる希望よ日々草

平田町 石田 さとる

(評) 日々草は、その名が示す通り暑さに負けず、強い生命力を象徴する花です。何かに挑戦しようという気持ちと日々の小さな積み重ねが希望に繋がるという前向きなメッセージを伝えていきます。

(幸司)

入選 許六忌や遺墨に触るる句座涼し

日夏町 寺村澄子

(評) 森川許六は芭蕉の十哲の一人で、書画・武道等その才能は顕著。その遺墨を飾り先人を偲び開いた句会。「十団子」の句にも劣らぬ俳句がいくつも出来たことでしょう。「涼し」とは句座の人と先人許六の遺墨との間にある涼風と見た。

(大門)

入選 だれかれの気づかいあふれ冬ぬくし

日夏町 林 正子

(評) 一人一人の心遣いが全体に行き渡り、居心地のよいものとなる。居心地がよければ会話が弾み、益々良い方へ向かっていくことと思う。ちょっとしたことで心が寒くも、暖かくもなることのない不思議。

(栄子)

入選 茶の花の垣根越しから回覧板

長浜市 勝木岩松

(評) 人間関係が希薄になった時代です。近隣同士でも会話が少なくなっているというのを耳にします。少し前まで日常のお隣さん同士声を掛け合った風景を「垣根越し」という表現で想像しました。

(幸司)

佳作 蔵奥に辿る記憶の雛飾り

東近江市 藤本 修

佳作 みちのくの旅のはじめの桜餅

正法寺町 高井 豊

佳作 いくたびも友の文読む日永かな

中藪町 本田 伸一

佳作 流れ来る夕の梵鐘花ぐもり

稲里町 勝見 政恵

佳作 古書店は昔銭湯春浅し

本町一丁目 中島 暉枝

佳作 解体の重機や空へ冴返る

城町一丁目 北村 天子

佳作 快勝のチーム躍立て天高し

京町三丁目 林 尚子

佳作 行く春や湖にどっしり竹生島

犬上郡豊郷町 米崎 功

佳作 濃紫一隅のみのげんげ畑

平田町 樋水 カツコ

佳作 山菜に春の息吹を味はひぬ

地藏町 佐古 徳子

佳作 慟哭の大地よ人よ年新た

東近江市 坂口 靖子

佳作 木枯しや樹齡幾百仁王立ち

米原市 奥村 和子

佳作 薫風の吹き抜けてゆく天守閣

高宮町 前川 菅子

佳作 爽やかに話す人居てとき忘れ

米原市 田辺 仁美

佳作 見つめれば話し出しさふ雛の口

外町 小早川 悦子

佳作 水草の浮き出づ湖面秋旱

米原市 成宮 伯水

佳作 恋路とはお騒がせもの猫の恋

京町一丁目 堀井 叔子

佳作 片手づつ脱がすマネキン更衣

長浜市 柴田 弥蔵

佳作 長老の法被も踊る秋祭

城町一丁目 松本 律子

佳作 元旦や列島揺るがす能登の地震

日夏町 寺村 房子

佳作 ドア開けて春風入るる美容室

芹橋一丁目 秋山 栄子

佳作 しなやかといふ強さあり枝垂梅

高宮町 細田 恵貢子

佳作 卒業の孫の自転車畑に行く

稲里町 野瀬 善一

佳作 残雪の比良の山並み光る朝

栄町一丁目 川 寄 美智子

佳作 ご城下に刻を知らせる鐘朧

芹橋二丁目 大野 優子

佳作 風の湖万羽の鴨の浮寝かな

後三条町 北村 しげ子

佳作 風光る彦根大仏慈悲深し

極楽寺町 古川 寛二



《總評》

今年、新年早々能登の大きな地震があり、災禍を受けられた方々に深くお見舞い申し上げます。

さて、今回も多数の俳句をご応募賜り厚くお礼申し上げます。

今回は、投句の時の注意事項を記します。

◎類想、類句を避ける（独自の発想）

◎口語と文語に注意する

◎漢字や送り仮名に注意（辞書で再確認する）

◎投句の字は楷書で誰でも読める字を

◎ひらかなを用いて句のバランスを考える

◎何回も朗読、句のリズムを整える

◎説明にならないこと（散文を避ける）

これらのことに注意して投句に望まれることをお勧めします。

秋口大門

少しずつ投句数が減るのは淋しい限りですが、今回も沢山の力作を寄せて頂き、楽しく拝見させていただきました。

全体的におとなしく手順れた感じは否めませんが、その分しっか

りと描写が出来ていたように思います。

十七文字に季題（季語）を入れるのですから、似通った句も出て

来ますので、見方を再考して見るのも、斬新な句を作る切っ掛けと

なるかも知れません。

またこの一年を元気で吟行に出かけていただき、市民文芸に応募していただきたく願っています。

北川栄子

応募作品は、自然の美しさや日常の出来事から感じたことを丁寧に書く作品としてまとめておられるものばかりでした。

俳句を作るとき、その時に思い浮かんだ言葉をひとつひとつをつないでいけば、それが自ずと俳句になるのです。俳句の対象は特殊なものとはひとつもありません。目にするもの、耳に伝わるもの等すべてが俳句の主役なのです。俳句を気楽に楽しんでほしいものです。

吉永幸司

選者吟

弁がらの軒は泥んこ夏つばめ

秋口大門

万緑の生命力に染まりけり

北川 栄子

初夏の陽を汲みては零す水車かな

吉永幸司